

萩生田参考人資料

2015.3.26
難病対策委員会資料

難病患者就職サポーターによる支援

ハローワーク渋谷 専門援助第二部門
統括職業指導官 萩生田 義昭

難病患者就職サポーターとは①

- 平成25年9月より東京では配置。
全国で15か所
関東では、東京、埼玉、神奈川のみ。
都内では、ハローワーク渋谷のみ。
- ハローワークにおける難病患者であって就労を希望する者に対する支援ニーズの増加と、難病患者・家族等に対する療養、日常生活、就労等に関する相談・援助、情報提供を実施する「難病相談・支援センター」との連携強化に対応する。

難病患者就職サポーターとは②

【ハローワーク】

- 月10日の勤務。（うち、1日は出張相談。）
- 専門援助第二部門
- 予約制で、1日4枠。

※来年度は、月15日の勤務予定（平成27年度政府予算案）

【難病相談・支援センター】

- 月1回、出張相談。
- 予約制で、1日5枠。

難病患者就職サポーターの支援対象者

- 症状が不安定であることや職業生活と治療の両立等に対し、課題を抱えている者
- 難病による症状等により就業面で特別の配慮が必要である者

※症状の悪化等により就労が困難と判断される場合には、本人の症状を勘案しながら、医療機関や難病相談・支援センター等の利用を促す。

難病患者就職サポーターの支援者状況①

【平成25年度：平成25年9月～平成26年12月まで】

- サポーターの相談者数

総数153名（ハローワーク求職未登録を含む。）

ハローワーク経由 110名

難病センター経由 43名

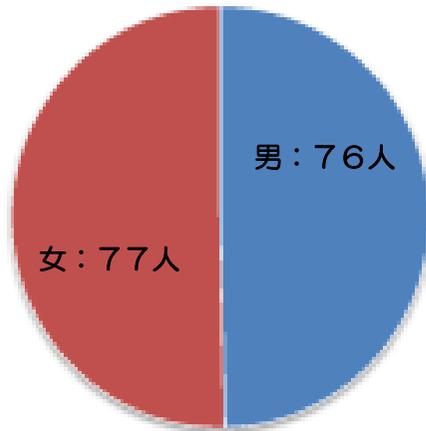
都内23区居住者 111名（管内45名）

多摩地区居住者 30名

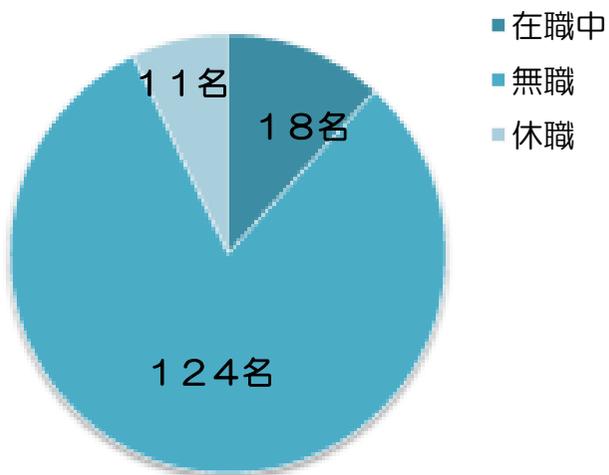
他県居住者 12名

難病患者就職サポーターの支援者状況②

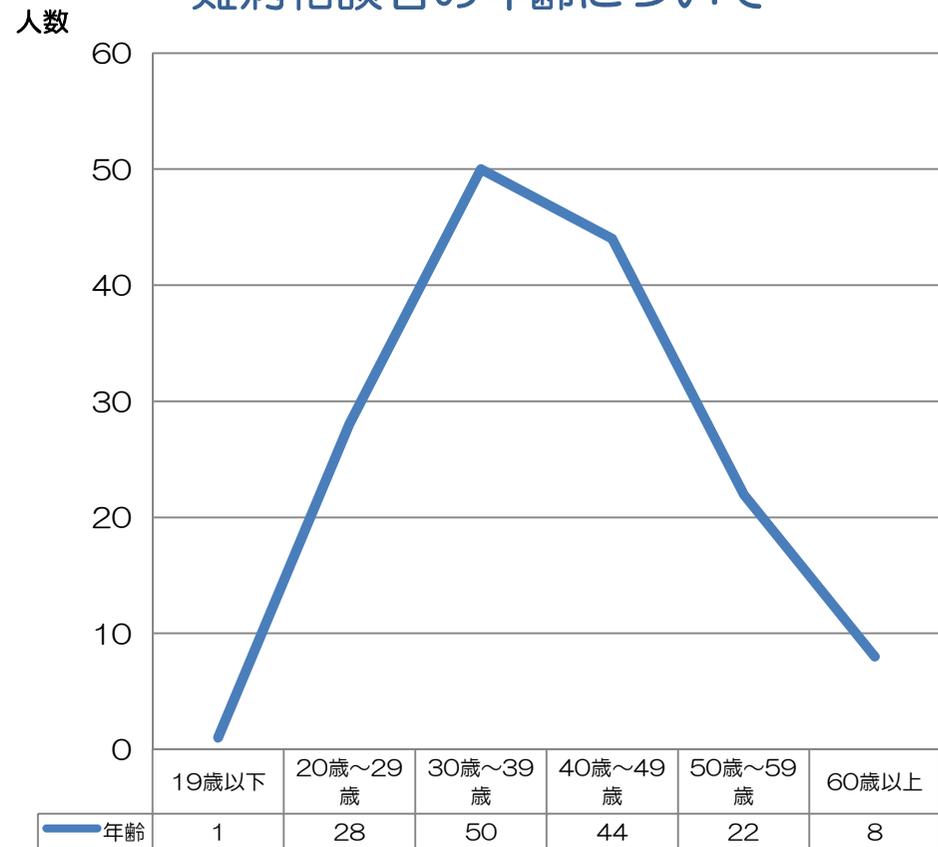
難病相談者の性別について



難病相談者の就業状況について



難病相談者の年齢について



難病患者就職サポーターの支援者状況③

【相談者の難病疾患について】

通番	病名	件数
1	全身性エリテマトーデス(SLE)	21
2	潰瘍性大腸炎	15
3	パーキンソン病	9
4	クローン病	9
5	パーチェット病	8
6	脊髄小脳変性症	6
7	間脳下垂体機能障害	5
8	後縦靭帯骨化症	5
9	難治性ネフローゼ症候群	5
10	慢性炎症性脱髄性多発神経症	5
11	特発性大腿部骨頭壊死症	5
12	ミトコンドリア病	4
13	混合性結合組織病	3
14	シェーグレン症候群	3
15	サルコイドーシス	3
16	ジストニア	3
17	重症筋無力症	3
18	多発性硬化症	3
19	網膜色素変性症	2
20	特発性拡張型心筋症	2
21	混合性結合組織病	2
22	多発性筋炎	2
23	肺動脈性高血圧症	2
24	下垂体機能低下症	2

通番	病名	件数
25	原発性肺動脈杯高血圧症	1
26	広範性脊柱管狭窄症	1
27	顕微鏡的多発血管炎	1
28	重症性免疫不全	1
29	地中海熱	1
30	非水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症	1
31	母斑症	1
32	成人ステイル症	1
33	強直性脊髄炎	1
34	突発性血小板減少性紫斑病	1
35	若年性パーキンソン	1
36	大動脈炎症候群	1
37	ギランバレー	1
38	悪性リウマチ	1
39	突発性難聴	1
40	皮膚筋炎	1
41	骨髄線維症	1
42	もやもや病	1
43	バージャー病	1
44	高安病	1
45	門脈圧亢進症	1
46	慢性膵炎	1
47	I g A腎症	1
48	多発性膿胞腎	1
49	強皮症	1
50	メニエール病	1

支援者の主な相談内容例

- 難病の開示・非開示について
- 公的な支援制度（利用可能な様々なサービス）について
- どのような職業を選べばいいのか
- 同病者はどういう仕事に就いているのか
- 仕事はやめた方がいいのか
- 難病患者を優先的に採用してくれる企業の求人情報はないのか

難病患者を支援するなかでの課題

【個人の課題】

- 完治しない疾病と寛解をくり返す症状との共存
- 社会的未熟さ
- ブランク
- 職業の見直し

【企業の課題】

- 偏見
- 無理解
- 職場環境が整備されていない

【制度の課題】

- 難病患者に対する就労支援者の質的・量的不足
- 医療機関等、他機関との連携模索

難病患者就職サポーターの支援事例①

【相談者の状況】

- Aさん 40代女性
- 20代の頃にネフローゼ症候群と診断される
発症を契機に鬱病を併発
- メンタルヘルス外来に通うようになる。現在1週間に1回のカウンセリングを受けている
- 今まで、短期間のアルバイト経験のみ
- 長期で働ける仕事を探したいと難病相談・支援センターの就労相談に訪れた
- センターでの出張相談から渋谷所での支援へ

難病患者就職サポーターの支援事例②

【初回面談時で把握した課題】

- 寛解をくり返す症状
- 精神面のコントロール
- 社会的経験の未熟さ
- 人間関係構築が不得意
- 日常生活のリズムが崩れている

※企業就労をするには、課題が多いので、就職準備性を高めるために、他機関と連携しての支援の必要性を感じた

東京障害者職業センターとの連携へ

難病患者就職サポーターの支援事例③

【東京障害者職業センターとの連携】

- 東京障害者職業センターの職業準備支援を利用
 - ① 現業系作業・事務補助系作業の訓練
 - ② ビジネスマナー等の就職支援講座
 - ③ 職場内コミュニケーション訓練・グループワーク
 - ④ 規則正しい日常生活の構築
- 8週間の訓練終了後の評価
 - ① 自己評価向上、自分を見つめ直す機会となった
 - ② 人間関係の構築に自信がついた
 - ③ 事務・パソコン技能の力がついた
 - ④ 規則正しい生活リズムが確立できた

難病患者就職サポーターの支援事例④

【今後の就職に向けた支援】

- 職業準備支援終了後の課題
 - ① 具体的なお仕事探し
 - ② 開示・非開示の整理
 - ③ メンタル面のサポート
 - ④ 就職後の定着支援
- 課題解決に向けた支援
 - ① 難病患者就職サポーターによる求人選択時のアドバイスと求人応募時の開示・非開示の整理
 - ② 精神障害者雇用トータルサポーターの支援
 - ③ ジョブコーチによる定着支援